

「令和6年度 第2回E B E協議会」

日 時：令和6年（2024年）11月11日（月）13:15～15:45 ZOOMによる遠隔会議

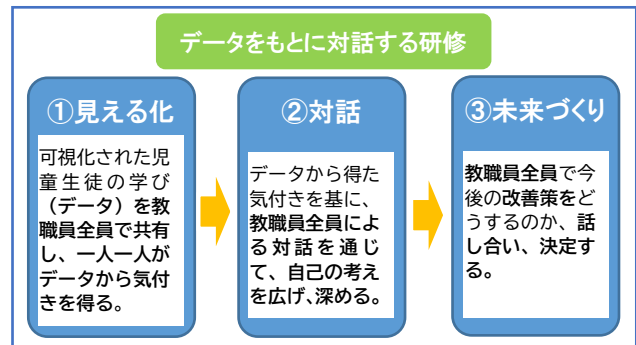
参加者：管内小・中学校及び公立高等学校の教諭等 計57名

11月11日（月）にWeb会議システム（ZOOM）を活用して、「令和6年度 第2回E B E協議会」を開催した。

本協議会は、小中高12年間を一体的に捉えた児童生徒の学力や学習状況等の分析結果を踏まえ、組織的な授業改革や学力向上等に向けた校内体制の整備、具体的な授業改革の方法などに関する説明や協議により、宗谷管内の児童生徒に必要な資質・能力の育成に資することを目的としており、第2回は、説明を①「見える化」の場面、実践発表を②「対話」の場面の一部、協議を③「対話」の場面と③「未来づくり」の場面として位置付けて実施した。

○説明

永野間義務教育指導班主査が、令和6年度全国学力・学習状況調査及び北海道高等学校「学習状況調査」等の各種調査結果の分析に基づく全道の状況、特徴的な問題の解答状況や本道の学習・生活習慣等の状況について「見える化」し、その調査結果で得られたデータの活用方法等について説明を行った。



○実践発表 「各種調査結果を活用した組織的な授業改革や学力向上等に係る取組について」

発表① 稚内市立稚内東小学校教諭 杉本 淳子 様

- ・取組の反省や改善策を教職員間で共有するための便りを発信。
- ・教職員へのアンケートから、個人だけで課題等を意識し続けることは難しいので、学校として全体で意識することを再確認した。
- ・CBT版チャレンジテストでは、ページをまたぐ問題への解答に難しさがあるとわかった。



発表② 枝幸町立歌登中学校教諭 田中 正道 様

- ・①具体化②対話③持続可能性をキーワードに取組を進めている。
- ・家庭学習の調査では、感覚的に回答した結果と事実との乖離があった。実際の「感覚」と「事実」の相関性を知ることが必要。
- ・教職員間で「見通し」や「振り返り」の言葉のおさえが曖昧だったため、対話により具体化を図った。



発表③ 北海道浜頓別高等学校教諭 小原 哲 様

- ・1日1時間以上学習している生徒を増やすため、アプリを最大限に活用。また、Googleフォームを利用したアンケート集計を実施。
- ・生徒の意欲を高めるよう手立てを工夫。生徒との面談によりさらに、やる気を刺激するようにした。
- ・放課後に学び直しの機会を設けている。(ゼロ to ワン講習)



○協議



実践発表後、中学校区別のグループに分かれ、「各学校における各種調査結果を活用した組織的な授業改革や学力向上等に係る取組について」異校種間で意見交流が行われた。

<まとめ>

千代義務教育指導監が、実践発表や協議での様子を踏まえ、自校の児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の定着にこだわり、課題解決のための具体的な方策を全ての教職員が把握・共有して、組織的に取り組むことを期待するとまとめた。